

平成25年度 大阪府立大学 授業公開講座(後期)

番号	講座名	講師	曜日	コマ	定員	開講日
1	公衆衛生学Ⅱ	星 英之	月	1	10	9月30日
2	中国思想の系譜	大形 徹	月	2	20	9月30日
3	西洋思想の系譜2B	中村 治	月	2	20	9月30日
4	文化形成論入門3	村田 京子	月	4	30	9月30日
5	文化と宗教	秋庭 裕	火	3	5	10月 1日
6	ソーシャルワーク概論	東 優子	火	3	10	10月 1日
7	都市文化論	酒井 隆史	火	3	20	10月 1日
8	日本文学特殊講義A	※ 青木 賜鶴子	火	5	5	10月 1日
9	法と社会	※ 和田 安弘	火	5	5	10月 1日
10	ヨーロッパの多言語社会	※ 中村 直子	火	5	5	10月 1日
11	科学と文化	※ 斎藤 憲	水	1	5	10月 2日
12	教育社会学	西田 芳正	金	1	10	9月27日
13	人間環境科学入門Ⅰ	牧岡 省吾	金	1	5	9月27日
14	陸域環境生態学	中山 祐一郎	金	2	5	9月27日
15	地域福祉論B	小野 達也	金	3	10	9月27日
16	エスニシティと文化2	萩原 弘子	金	4	5	9月27日

※印は、学生の受講申請状況により授業公開できない場合がありますのでご了承ください。

1コマ: 9時00分～10時30分 / 2コマ: 10時40分～12時10分 / 3コマ: 12時55分～14時25分
4コマ: 14時35分～16時05分 / 5コマ: 16時15分～17時45分

会場 大阪府立大学 なかもずキャンパス

交通: 南海高野線「白鷺」駅下車 南西へ約500m
地下鉄御堂筋線「なかもず」駅下車 5番出口 南東へ約1,000m
JR阪和線「三国ヶ丘」駅下車、バス15分「府立大学前」下車
* 駐車場はありませんので、電車・バス等をご利用ください。

対象 どなたでも(全期間を通じて受講できる方)

受講料 1講座 3,000円

尚、一旦お支払いいただいた受講料は、返金いたしかねますのでご了承ください

締切 平成25年 8月30日(金) 《必着》

◎ 講義概要については、裏面をご覧ください

申込方法 「ハガキ」又は「Eメール」に、①ご希望の講座名、②郵便番号・住所
③氏名(ふりがな)・年齢 ④電話番号 を記入の上、下記宛先まで(携帯メール不可)
※申込者多数の場合は抽選にて受講者を決定します(結果については全員に通知します)

申込先 〒599-8531 堺市中区学園町1-1
大阪府立大学 地域連携研究機構 生涯教育センター「授業公開講座」係
e-mail: jk25@ao.osakafu-u.ac.jp (半角英数)

問合せ先 TEL: 072-254-9942 (生涯教育センター)



大阪府立大学

授業公開講座

平成25年度 後期

この授業公開講座では、本学の授業科目の一部を一般の皆さまに公開し、学生とともに授業を受けていただける講座となっております。皆様のご参加をお待ちしております。

平成25年 9/27(金) ~ 平成26年 1/27(月)
各15回(予定)



- ◆ 公衆衛生学Ⅱ
- ◆ 中国思想の系譜
- ◆ 西洋思想の系譜2B
- ◆ 文化形成論入門3
- ◆ 文化と宗教
- ◆ ソーシャルワーク概論
- ◆ 都市文化論
- ◆ 日本文学特殊講義A
- ◆ 法と社会
- ◆ ヨーロッパの多言語社会
- ◆ 科学と文化
- ◆ 教育社会学
- ◆ 人間環境科学入門Ⅰ
- ◆ 陸域環境生態学
- ◆ 地域福祉論B
- ◆ エスニシティと文化2

※お申込の際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成及び本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

平成25年度 大阪府立大学 授業公開講座(後期)【講義概要】

講座番号 1：「公衆衛生学Ⅱ」（現代システム科学域）	星 英之 准教授
-----------------------------------	-----------------

公衆衛生学IIでは、疾病予防に関して、前期に学んだ公衆衛生学Ⅰを基礎にさらに詳細な知識について学びます。
その中で、喫煙、飲酒、身体活動などの要因と疾病予防に関する詳細な知識、さらに保健・医療・福祉・介護に関する行政面の考え方を身に付けることを目標にしています。
公衆衛生学Iと共に受講することを推奨しますが、公衆衛生学IIのみの受講も可能です。

講座番号 2：「中国思想の系譜」（人間社会学部）	大形 徹 教授
---------------------------------	----------------

長い歴史をもつ中国では数多くの思想が生みだされ、日本人にも大きな影響を与えています。孔子や孟子の儒家、老子や荘子の道家、墨子の墨家、韓非子の法家などが代表的です。本講義ではそういった思想家たち個人の考えた思想をわかりやすく概説します。同時に中国の人々が知らずしらずのうちに形成していった、いわば中国人全体の思想ともいえる死生観や魂魄概念に関しても具体的な例をあげながら紹介していきます。

講座番号 3：「西洋思想の系譜2B」（人間社会学部）	中村 治 教授
-----------------------------------	----------------

リン・ホワイト・Jrの「現在の生態学的危機の歴史的根源」などを読むことにより、キリスト教と環境問題の間にどのような関係があると指摘されているのかを見たうえで、その指摘が妥当かどうかを、「創世記」に関するアウグスティヌスやトマス・アキナスの解釈、ニコル・オレーム、フランシス・ベーコン、デカルトなどの思想の検討、『中世の産業革命』、『自然と人間』などの研究書を読むことによって考察し、人間と動物の関係、キリスト教と環境問題の関係について考える。

講座番号 4：「文化形成論入門3」（人間社会学部）	村田 京子 教授
----------------------------------	-----------------

「サン=テグジュペリ『星の王子さま』を多様な視点から読み込む」
アントワヌ・ド・サン=テグジュペリの『星の王子さま』は、『聖書』『資本論』に続いて世界でも3番目に読まれている作品で、130種類の言語に翻訳され、全世界で年間100万部以上が売れていると言われています。児童書として平易な言葉で書かれているにも関わらず、「王子さま」が発する言葉は謎に満ち、哲学的な色合いすら帯びています。出版されてから半世紀以上たった現在でも、世界中の人々を引きつけてやまない本書の魅力とはどのようなものなのか、社会的・歴史的背景を考慮に入れながらも、その普遍的な価値を探り、多様な視点から文学作品を読み込んでいきたいと思います。
教科書:サン=テグジュペリ『星の王子さま』三野博司訳、論創社

講座番号 5：「文化と宗教」（現代システム科学域）	秋庭 裕 教授
----------------------------------	----------------

<目標>日本宗教の「救い」を考察する。21世紀、グローバリゼーションが刻々進展する時代にあって、私たちの文化伝統の屋台骨をなす宗教文化を見つめ直すことは必須不可欠である。それは「21世紀、東アジアの片隅で生きる私たちは、いかに幸福に、死ぬことができるかを、理論的に問う」ことでもある。

<授業計画の概要>・宗教と呪術と科学・民俗宗教と教団宗教・新宗教／新新宗教／スピリチュアリティの興隆・日本宗教の「革新」―鎌倉仏教の祖師たち・海を渡る日本宗教・21世紀における日本宗教の「可能性」

講座番号 6：「ソーシャルワーク概論」（地域保健学域）	東 優子 教授
------------------------------------	----------------

社会福祉援助技術の入門科目として位置づけられる本講義では、ソーシャルワークにおける相談援助活動の実際と、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容、専門職の概念と範囲、専門職倫理に対する理解を深めることを目標として授業を行う。上記の目標に掲げられた内容について、受講生は地域でさまざまな相談援助活動に取り組むゲストスピーカーによるリレー・トークに耳を傾ける。また、受講生が自分自身(の価値観)と向き合うことを目的として、レポート課題やグループ・ディスカッションに取り組むことが求められる。

講座番号 7：「都市文化論」（現代システム科学域）	酒井 隆史 准教授
----------------------------------	------------------

主要には20世紀に世界で生まれた大衆音楽に焦点をあわせ、さまざまな角度からそれを考えてみたいと思います。ここでいう大衆音楽とは、前近代の民衆の音楽である民謡とは区別されます。20世紀の大衆音楽とは本質的に都市の民衆の表現であり、そこには、世界的に移動する民衆の経験が凝縮されています。ほんの一例にすぎませんが、ニューオーリンズのジャズ、ブエノスアイレスのタンゴ、キングストンのレゲエ、ニューヨークのヒップホップなどといった具合です。大衆音楽は、一曲が3分そこの短い時間のなかに、果てしない経験や感情を結晶させています。この美しい結晶体の秘密の一端をみなさんと探りあてられれば、と考えています。

講座番号 8：「日本文学特殊講義A」（人間社会学部）	青木 賜鶴子 教授
-----------------------------------	------------------

《平安時代文学と女性》
女性は、文学の中でどのように描かれ、どのような女性が理想とされてきたのか。また女性はどのような生き方をしてきたのか。この講義では、女性の活躍がめざましい王朝文学を中心に、文学に描かれた女性たちの生き方を考えます。
今期は、小野小町を取り上げ、さまざまな角度から小町の実像と虚像、伝説について検討します。

講座番号 9：「法と社会」（高等教育推進機構）	和田 安弘 教授
--------------------------------	-----------------

社会とそれを構成する諸個人の相互規定的な関係、そこに発生する社会規範・ルールの機能と形態、社会秩序の維持と再生産の構造、紛争と紛争処理のモデルと実態、権利観念の実証的理解、などのテーマに分け入って考察を進めていく。項目的には、以下のようなテーマを扱うことになる。社会と個人はどのように関係しているのか、社会化と社会統制のメカニズム、社会化のメカニズムを支える「役割」と「地位」、社会規範の基本的性格、社会規範の諸類型と法の位置づけ、法と法律(生ける法と実定法)、法的世界の成立(1次ルールと2次ルール)、紛争の展開モデル、紛争の実証的展開、権利の社会背景、権利意識と権利観念、日本人の権利観念、など。

平成25年度 大阪府立大学 授業公開講座(後期)【講義概要】

講座番号 10：「ヨーロッパの多言語社会」（高等教育推進機構）	中村 直子 講師
--	-----------------

言語的グローバリゼーションで、世界的に英語の使用率は増していますが、EUという共同体を作りながら、個々の違いを尊重しようとする、現代ヨーロッパの言語使用の現状と問題を学びます。現代のヨーロッパにおける使用言語の分布、ヨーロッパにおける多言語国家や、EUにおける多言語主義について学ぶことによって、異なる言葉話す人々が隣り合わせて暮らすヨーロッパにおいて、それぞれの言葉話す人々が、互いの意思疎通をどうしているかということや、自分たちの言葉の独自性をどう保持しようとしているかという知識を得ることによって、ヨーロッパの多言語社会について考察します。また、ヨーロッパの人々が、世界共通語としての英語にどのような意識を持っているかということについても考察します。

講座番号 11：「科学と文化」（高等教育推進機構）	斎藤 憲 教授
----------------------------------	----------------

近代の自然科学がどのように成立したかを、主に天文学と運動論の発展から見ていきます。最初にアリストテレスによって確立した自然観と、プトレマイオスによって完成した天動説に基づく計算天文学を確認し、近代においてそれが批判されていく過程を見ていきます。この分野には多くの概説書がありますので、一般的な説明だけでなく、できるだけ具体的な科学の内容に入って詳しく説明します。特にプトレマイオスによる天文計算(球面三角法の基礎から惑星の周転円などの決定まで)、ガリレオによる等速運動・等加速度運動・投射体の運動の議論などを詳しく扱います。多少込み入った数学的な議論になりますが、微積分などの知識は必要ありません。

講座番号 12：「教育社会学」（地域保健学域）	西田 芳正 教授
--------------------------------	-----------------

社会の「一人前」の成員に育て上げるための営みは、学校が登場する以前から存在し、学校教育のウェイトが拡大した今日においても、学校外で行われる人間形成の働きかけが持つ意味は大きなものがある。

「教育社会学」の講義では、学校内外で行われる人間形成の営みについて、学校が登場する以前と今日の姿を比較することで検討し、現代社会における教育の問題性と課題を整理する。また、講義の後半では、近年進みつつある格差拡大、社会的排除の深刻化の問題を学校教育との関連で取り上げ、「排除型社会における学校教育の課題」について検討する。

講座番号 13：「人間環境科学入門Ⅰ」（現代システム科学域）	牧岡 省吾 教授
---------------------------------------	-----------------

人の行動や行動の背後にある心のはたらきについて概説する。発達、学習、記憶、視覚、聴覚、思考、推論、言語など、心の様々な側面について、これまでに解明された様々な知見を紹介し、心の基本的な仕組みについて理解していく。学問分野としては主として心理学を扱うが、必要に応じて動物行動学、分子生物学、神経科学、言語学など、他の分野の知見も取り入れながら解説する。
受講にあたって心理学に関する予備知識はとくに必要ない。授業中に簡単な実験を行う場合もある。テキストとして下記の書籍を使用する。
鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編) 心理学[第4版] 東京大学出版会

講座番号 14：「陸域環境生態学」（現代システム科学域）	中山 祐一郎 准教授
-------------------------------------	-------------------

人間の生存にとって不可欠な生態系サービスの理解、健全な生態系の維持と生物多様性の保全を実現するために必要な科学的知識の習得ならびに価値観の養成を目標にしています。この科目では、生物の生活と環境との関係が理解できるように、生態系の構造と機能、生物の環境形成作用、生物種の環境に対する適応、個体群動態と種間の相互作用、生物群集の構造と多種共存機構について講義します。さらに、陸域と淡水域の様々な生態系について、その成り立ちと現状を具体的な事例をもとに説明し、生態系リスクの評価と管理の基礎を習得できるようにします。具体的には、以下の項目について講義する予定です:生態系と生態学の構造、生態系における種の機能、生活史の適応進化、生理生態的特性の適応戦略、動物の行動と社会、個体間相互作用と個体群の動態、生物群集と生物間相互作用、遺伝的多様性とメタ個体群;森林の生態系、草原・湿地の生態系、高山の生態系、河川・湖沼の生態系、農耕地の生態系、都市の生態系、生態系リスクと持続可能性。

講座番号 15：「地域福祉論B」（地域保健学域）	小野 達也 准教授
---------------------------------	------------------

地域福祉論Bでは、地域福祉の実践の担い手やその進め方について学びます。地域福祉の推進には、さまざまな主体が関わり、多様な活動・事業が展開されています。地域での動きをどのように整理し、理解し、支援することができるかを考察します。具体的には、行政や社会福祉協議会、NPO、住民などの実践主体を取り上げていきます。また、地域福祉では、公私関係や組織化活動ということが重要であり、かつ、近年では地域での個人支援も進められています。こうした地域での援助活動についても学ぶほかには、そうした活動を支える仕組みについても検討します。地域での実践に関心のある人の参加をお待ちしています。

講座番号 16：「エスニシティと文化2」（人間社会学部）	萩原 弘子 教授
-------------------------------------	-----------------

アフリカ大陸の人々を奴隷として「新世界」へ運んだ大西洋奴隷貿易が、英国議会で廃止されてから2世紀を越える時が経過しました。奴隷貿易、奴隷制度といえば、過去のことと思いがちですが、現代には現代の奴隷制があります。奴隷労働廃止は、いまままだ課題なのです。では、2世紀前に廃止された奴隷貿易とは、何だったのでしょうか。また、奴隷制そのものの廃止が、貿易の廃止から30年から40年も待たなければ実現しなかったのは、どうしてだったのでしょうか。近代奴隷制について問うべき問いは、そのほかにも数多くあります。南北を含めて「アメリカ」と呼ばれることになった「新世界」で発達した奴隷制は、それまでの奴隷制と何が違っていたのでしょうか。なぜアフリカ人が奴隷とされたのでしょうか。本講義では、近代になって「黒人」と色の名前で呼ばれるようになった人々の歴史経験である人種奴隷制に焦点をあてて、「人種」という思想の形成を論じます。そのなかで、上記のような問いの答えを出していきます。アメリカ南部のミシシッピーの綿花畑というイメージは、近代奴隷制の末期に登場した光景であり、本講義ではあまりとりあげません。お話するのは、西インド諸島のサトウキビ農園やヴァージニアのタバコ農園が奴隷制の中心であった時代です。とりあげるテーマ群は以下のとおり。奴隷貿易とイギリス大西洋帝国の形成。近代奴隷制の新しさ。奴隷制擁護の思想。三角貿易と産業革命。アボリシヨニズム(奴隷貿易廃止、奴隷制廃止の主張と運動)とは何であったか。近代奴隷制がつくりだした概念としての「黒人」、ほか。